

令和3年度 船橋の台所事情

船橋市の**予算**を
わかりやすく説明します



もくじ

予算の基礎知識	3
一般会計歳出	5
一般会計歳入	8
市民生活に身近な予算の内訳	10
船橋市の家計簿	11
船橋市の財政状況	12
令和3年度予算の主要事業	18

予算の基礎知識

「予算」とはなに？

1年間のお金の使い道、それが予算です。

市では、お金の使い道を毎年4月から翌年の3月までの年度単位で考えます。

この1年間に市に入ってくる収入を見積もり、収入の範囲内で市が行っているいろいろな仕事（福祉、教育、ごみ処理、道路整備、消防など）にどのくらいのお金を使うかという支出の計画を立てます。これを「予算」といい、市の仕事は、この予算に従って行われます。

予算はどのように決めるの？

収入

市民の皆さんに納めていただく税金、公民館やスポーツ施設などの使用料、国や県からの補助金などがどのくらい入ってくるのかという見積もりをします。

支出

日頃、市民の皆さんから寄せられる意見や要望も取り入れながら、次年度の仕事の予定を立て、その仕事に必要な金額を見積もります。見積もった収入ですべての仕事ができればいいのですが、とても収入の範囲には収まりません。

そこで、市民生活を守るために緊急性や必要性が高いかどうか検討し、優先度が高いと判断したものについて、後期基本計画との整合を図りながら次年度に行う仕事を決め、予算案を作成します。

お金の使い道を決めることはとても大切なので、市民の代表で構成される市議会で審議してもらい、議決を受けてはじめて予算が決まります。

市役所の作業	予算編成方針	8月
	予算要求	10月
	市長査定	1月下旬

予算案提出

市議会の審議	予算案審議	2月下旬
	当初予算成立	3月下旬

議決

決まった予算は変えられないの？

4月から翌年の3月までの1年間の予算は、3月に市議会での議決を受けて決まります。これを「当初予算」と言います。

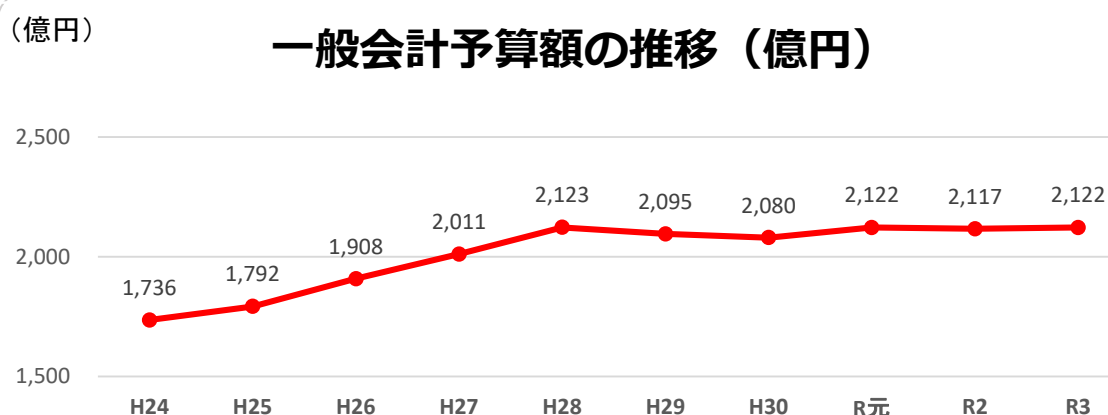
しかし、年度の途中で国が新たな制度を作ったり、台風などの災害が起こったり、社会情勢の変化や想定できなかったことが生じることもあります。

年度の途中でも、その変化や想定外のことに対応するために、追加の予算を作ります。これを「補正予算」と言います。補正予算も当初予算と同じく市議会の議決を受けて決まります。

予算の規模と会計の仕組み

一般会計

市の基本的な仕事（福祉、教育、ごみ処理、道路整備、消防など）を行うための会計です。一般的に市の予算と言えば「一般会計」をさし、市税を主な財源としています。令和3年度の予算規模は、2121億7000万円で前年度比0.2%増となりました。新型コロナウイルス対策経費の増加に伴い、平成28年度に次ぐ予算規模となりました。



特別会計

特定の収入（国民健康保険料、介護保険料など）がある、特定の目的のための予算を経理する会計を「特別会計」と言います。

お金の出し入れをわかりやすくするために一般会計と財布を分けて管理します。

区分		令和3年度予算額
特別会計	国民健康保険事業	486億4500万円
	公共用地先行取得事業	1億9200万円
	船橋駅南口市街地再開発事業	8億1600万円
	介護保険事業	451億3100万円
	母子父子寡婦福祉資金貸付事業	9000万円
	後期高齢者医療事業	84億700万円
	計	1032億8100万円

公営企業会計

市が企業的性格を持った事業（市場、病院、下水道）を経営するための予算を経理する会計を「公営企業会計」と言います。事業の収入を主な財源としています。

特別会計と同様にお金の出し入れをわかりやすくするために、一般会計や特別会計と財布を分けて管理します。

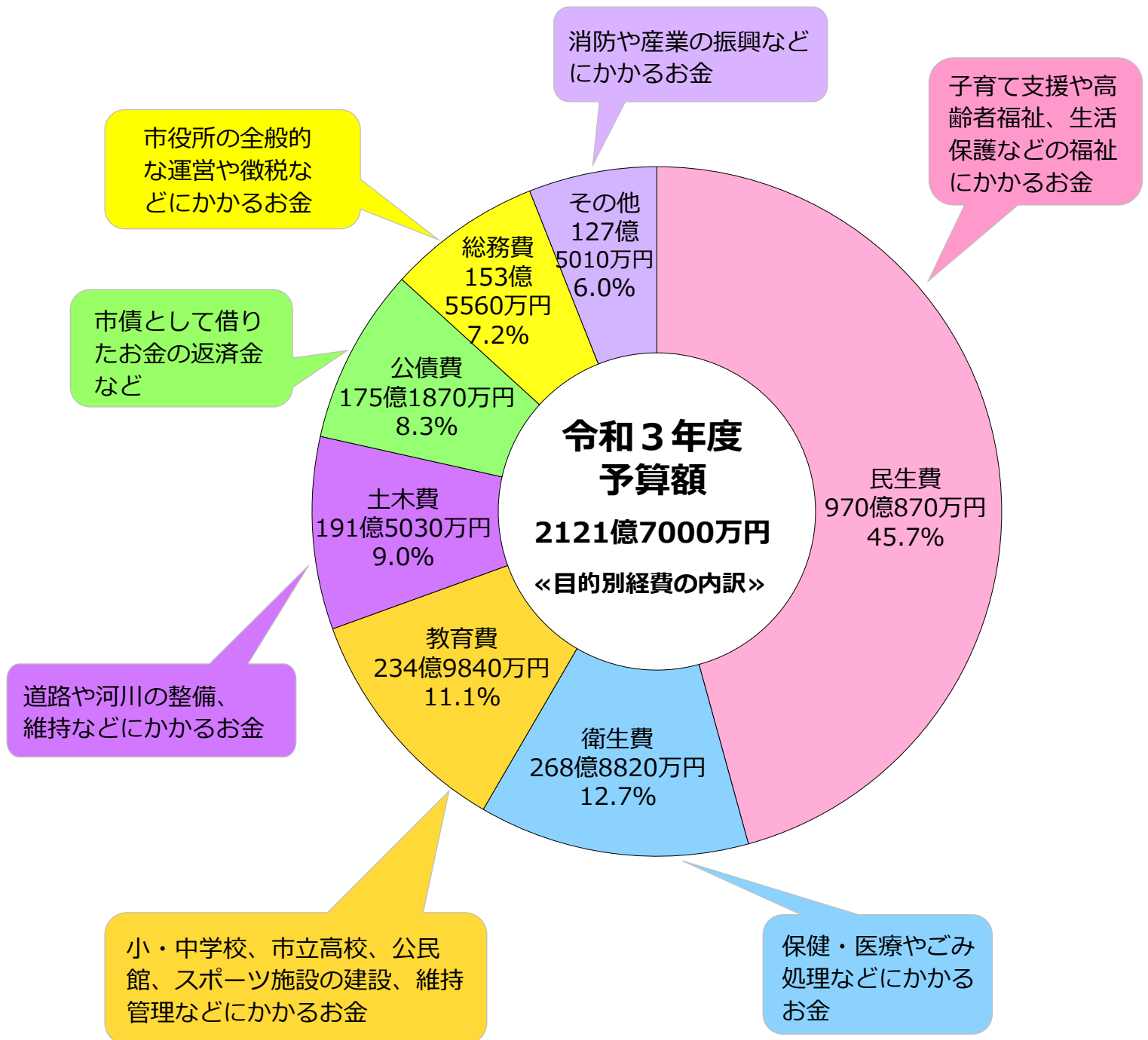
区分		令和3年度予算額
公営企業会計	地方卸売市場事業	10億3000万円
	病院事業	197億1500万円
	下水道事業	377億3022万円
	計	584億7522万円

一般会計歳出

市の支出にはどんなものがあるの？

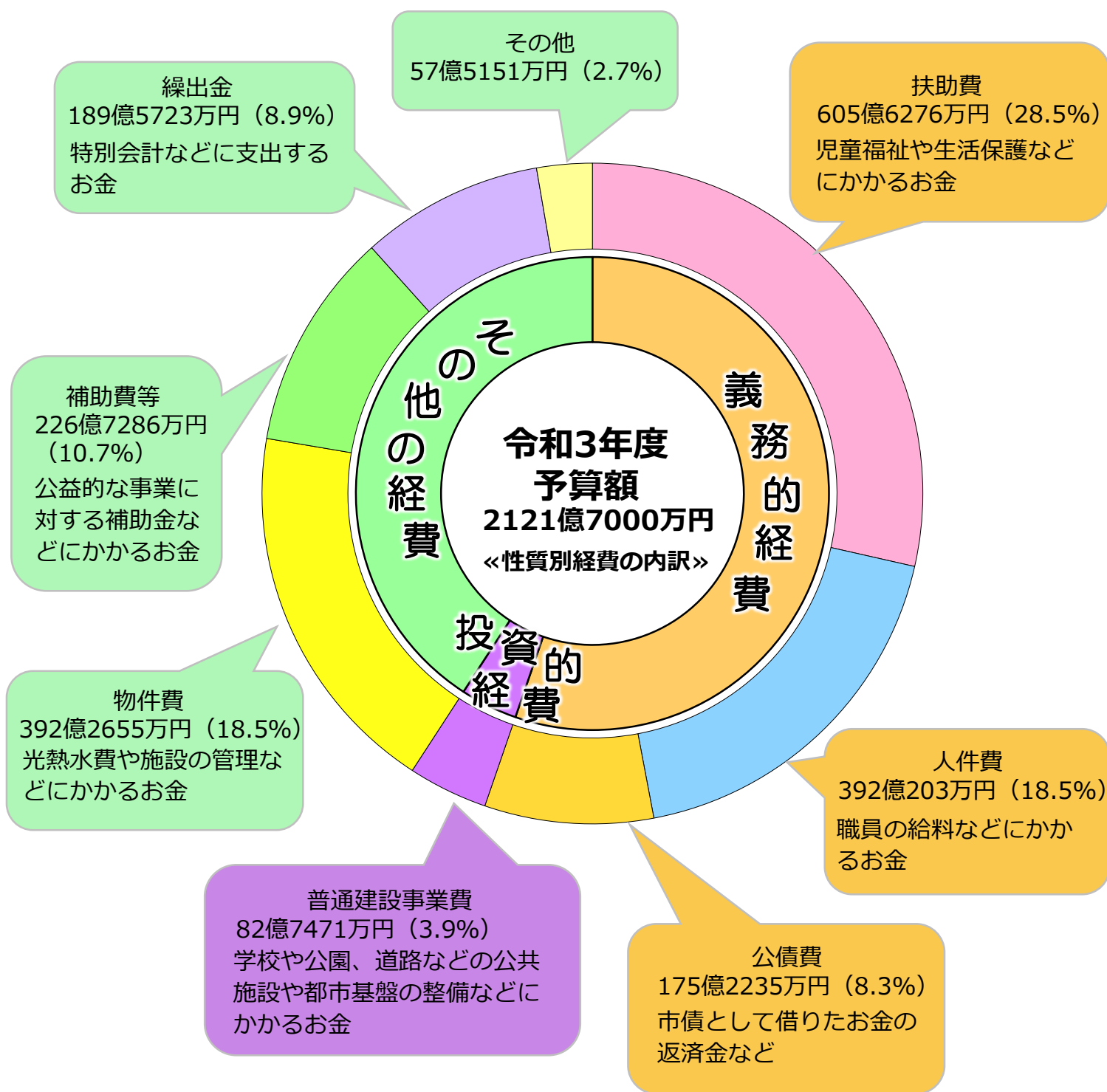
目的別経費による内訳

市の歳出（1年間の市の支出）を経費の目的に着目して分類すると、下のグラフのようになります。



性質別経費による内訳

市の歳出を経費の性質に着目して分類すると、下のグラフのようになります。



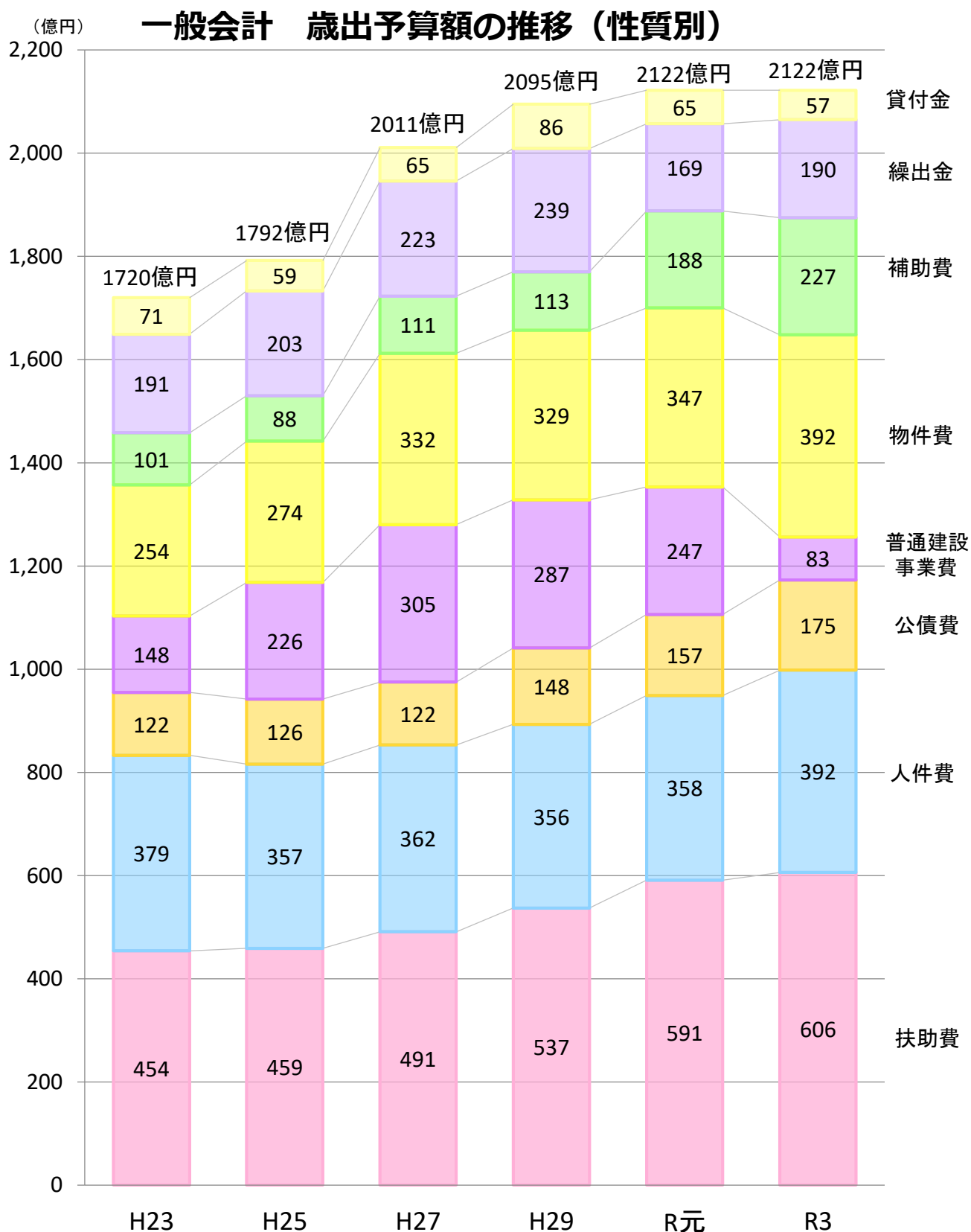
義務的経費・投資的経費とは…

義務的経費・・・法令などにより支払いが義務付けられていて、減らすことが難しい経費

投資的経費・・・道路、橋、公園、学校などの建設や大規模な修繕などの経費

性質別経費の推移

予算額を10年前と比較すると歳出全体で402億円も増えています。そのうち最も増加額の大きい義務的経費である扶助費は、保育所にかかる経費や生活保護費などの社会保障経費の増加により、10年前に比べ約152億円増加しています。



一般会計歳入

市の収入にはどんなものがあるの？

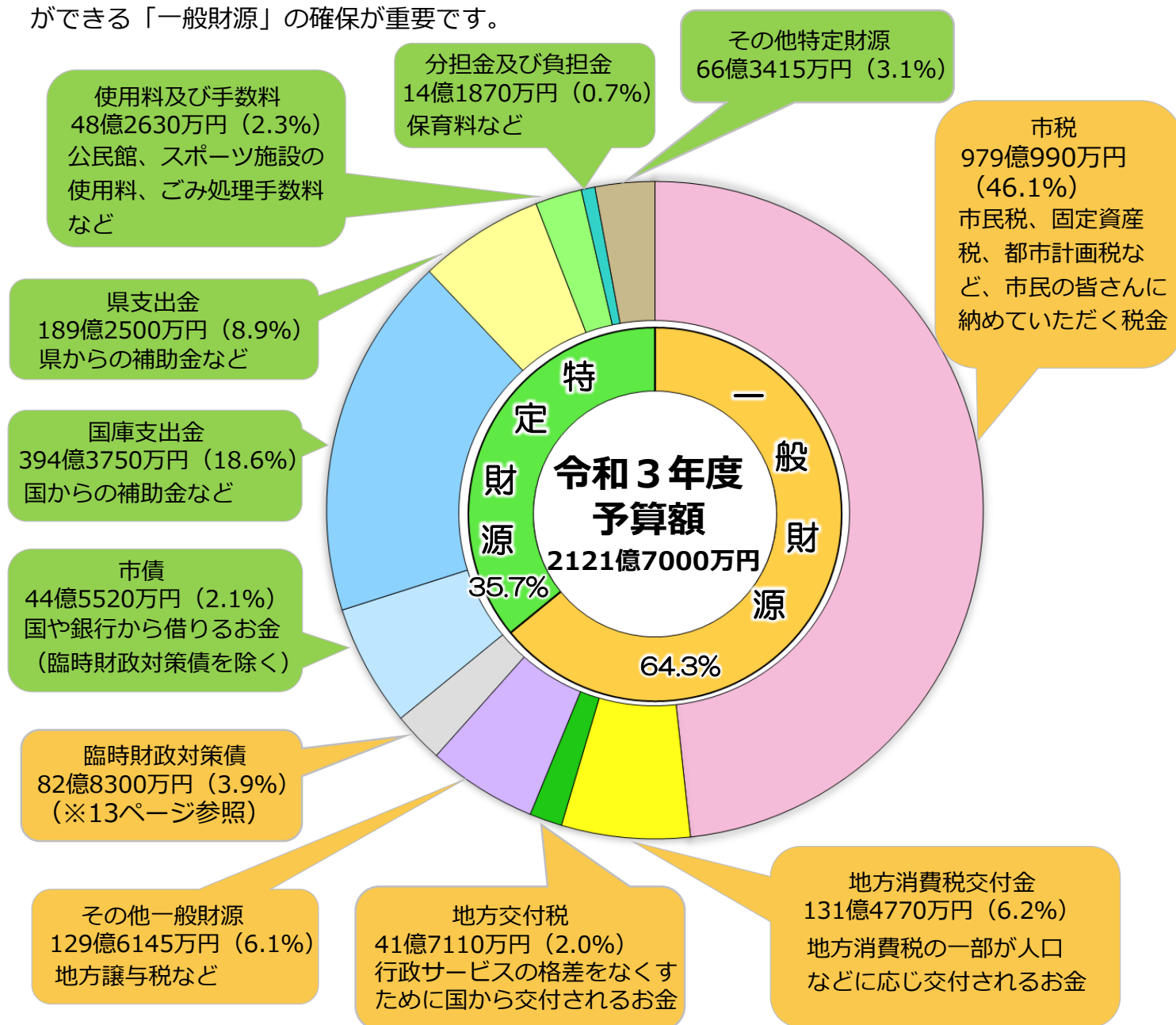
市の歳入（1年間の市の収入）のうち、最も大きいものは「市税」です。また、国や県からもらう「国庫支出金」や「県支出金」、借入金である「市債」などがあります。

これらの収入は、使い道が自由な「一般財源」と使い道が決められている「特定財源」に分けられます。

一般財源は、市が受け取る時点で使い道があらかじめ決まっていないお金のことで、市税や地方交付税などです。

特定財源は、市が受け取る時点で使い道が決められているお金のことで、道路などの建設事業に使うために国からもらう補助金や、公共施設の改修工事などに使うため、国や銀行から借りる市債などです。

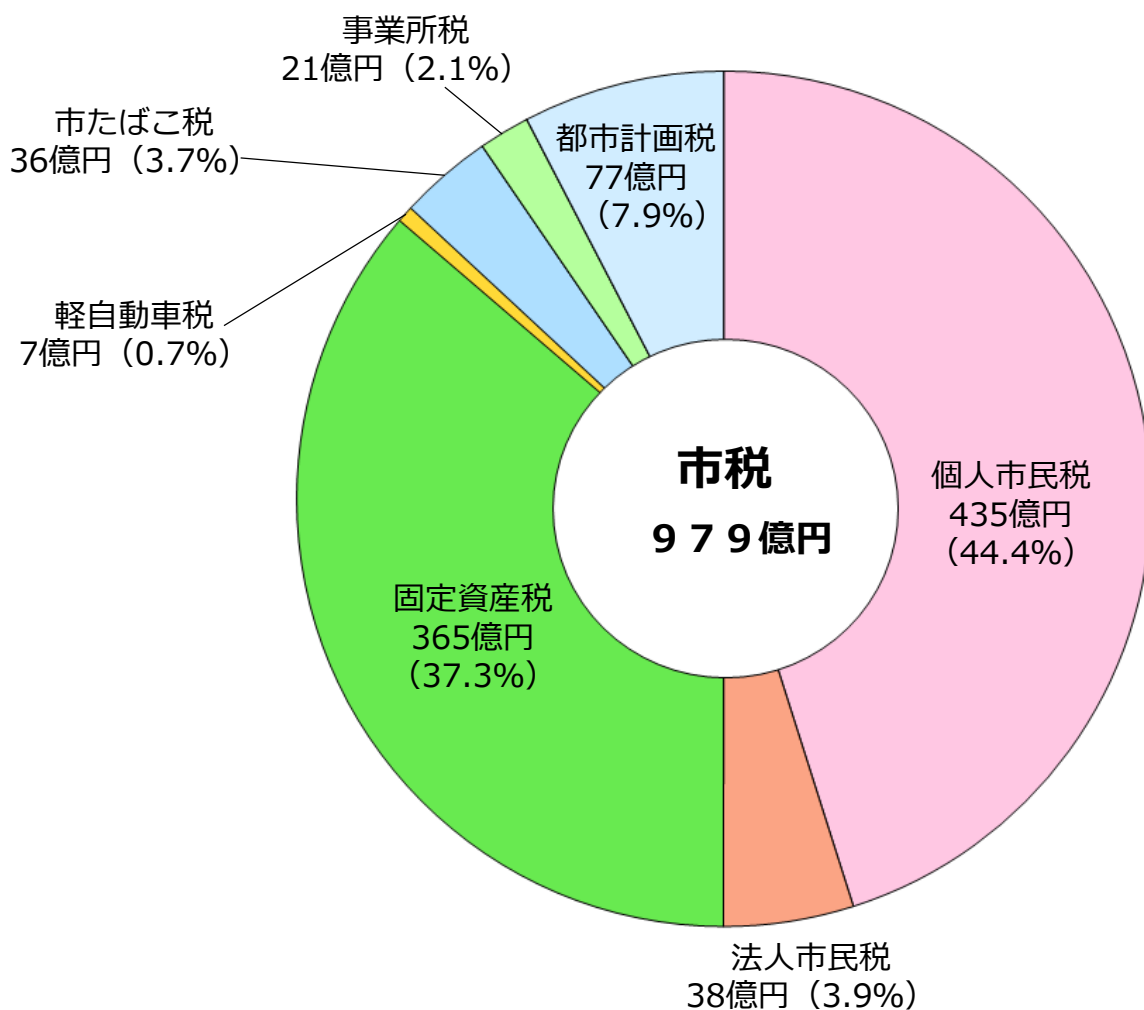
市民の皆さんの様々なニーズにお応えする仕事を行うためには、使い道を自由に決めることができる「一般財源」の確保が重要です。



市税の概要

市税は、市の歳入の約半分を占めています。その内訳は、「個人市民税」と「固定資産税」が多くを占めています。市税の中では、景気の影響を受けやすい「法人市民税」の割合が低いことから比較的変動の少ない歳入構造が本市の特徴です。

市税の内訳



個人市民税 市民の皆さんに納めていただく税金

法人市民税 市内に事業所等がある法人に納めていただく税金

固定資産税 土地・家屋・償却資産（事業用の機械など）にかかる税金

軽自動車税 軽自動車や原付バイクなどにかかる税金

市たばこ税 たばこの製造業者などが市内の小売販売者に売り渡した「たばこ」にかかる税金

事業所税 都市環境の整備等の費用に充てるため事業所等に納めていただく税金

都市計画税 下水道・道路などを整備する都市計画事業の費用に充てるための税金

市民生活に身近な予算の内訳

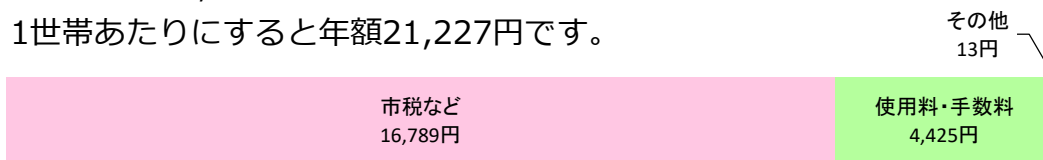
皆さんが納める税金や国や県からの補助金がどんな事業にどのくらい使われているかを市民生活に身近な予算を例に紹介します。

①ごみの収集・処理にかかる予算

ごみの収集や焼却にかかる人件費や清掃工場の運営費などで年間63億円かかります。

世帯数296,325世帯（3年4月現在）

1世帯あたりにすると年額21,227円です。

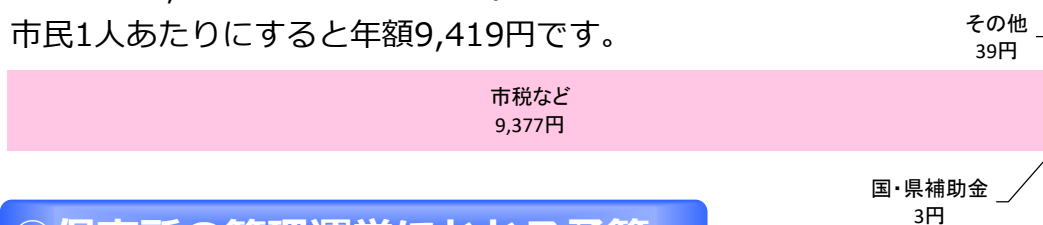


②消防・救急にかかる予算

消防活動や救急活動にかかる人件費や消防車両の維持費などで年間60億円かかります。

人口642,174人（3年4月現在）

市民1人あたりにすると年額9,419円です。



③保育所の管理運営にかかる予算

認可保育所の管理運営にかかる人件費や施設の維持費などで年間201億円かかります。

入所児童数11,744人（3年4月現在）

入所児童1人あたりにすると年額1,708,234円です。

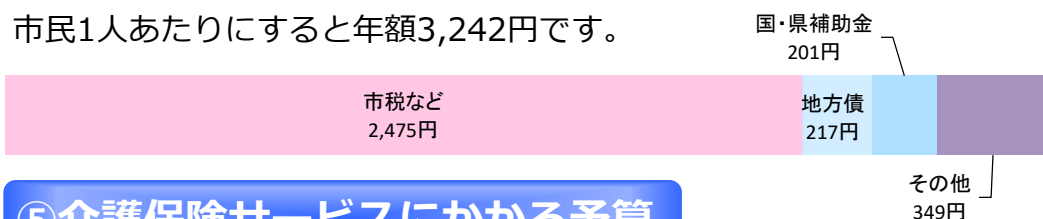


④公園の整備・維持管理にかかる予算

公園の整備や維持管理にかかる費用などで年間21億円かかります。

人口642,174人（3年4月現在）

市民1人あたりにすると年額3,242円です。

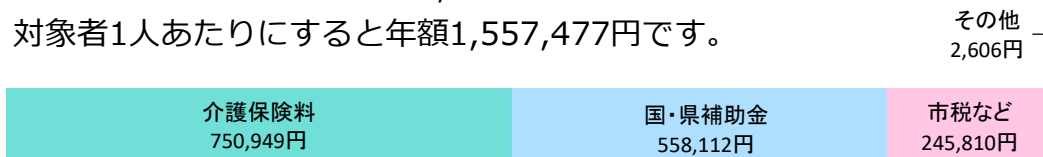


⑤介護保険サービスにかかる予算

介護サービス・介護予防の実施等にかかる費用などで年間451億円かかります。

要介護・要支援認定者数28,977人（3年4月現在）

対象者1人あたりにすると年額1,557,477円です。



船橋市の家計簿

市の予算額（一般会計）は、2121億7000万円と非常に大きいため、額を縮小して市の予算を家計簿に置き換えてみました。給与年収436万円（※）（給与月収36万3000円）であらわしてみました。

毎月の収入

給 与 363,000円

（うち基本給〈市税〉：204,000円）
（うち諸手当〈地方譲与税、地方消費税交付金、
国・県支出金など〉：159,000円）

家賃収入 44,000円

分担金・負担金、使用料・手数料、財産収入など

親からの仕送り 9,000円

地方交付税

借入金 27,000円

市債
（うち増改築のローン：9,000円）
（うち生活費等（臨時財政対策債）：
18,000円）

合 計 443,000円

毎月の支出

食 費 82,000円

人件費

医療費など 126,000円

扶助費

**光熱水費や電話代
などの生活費** 141,000円

物件費、補助費等、維持補修費

子どもへの仕送り 40,000円

他会計への繰出金

家の増改築費 17,000円

普通建設事業

ローン（借金）の返済 37,000円

公債費

合 計 443,000円

※年収436万円は、国税庁が調査した令和元年分民間給与実態統計調査の平均給与額

船橋市の財政状況

市の貯金、借金などの状況や、市の財政の健全化を図る指標を他市との比較を交え説明します。

船橋の財政状況はいいの？

夕張市の財政破綻をきっかけに、自治体の財政破綻を未然に防ぐことを目的として、平成19年に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定されました。

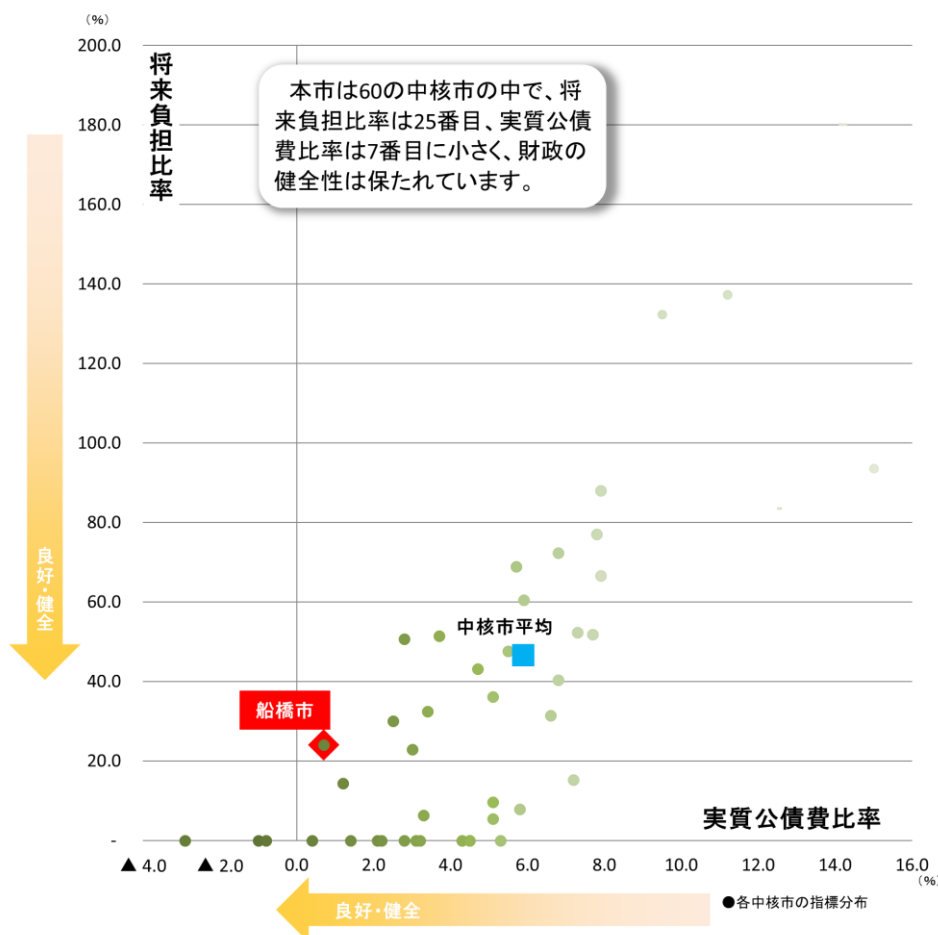
自治体財政の早期健全化や再生の必要性を判断する「健全化判断比率」として、4つの財政指標があります。

これらの指標のうち1つでも国が定めた基準（早期健全化基準）以上の数値になった場合には、財政健全化計画を策定しなければなりません。船橋市は現在のところ、いずれの指標もこの基準を下回っています。このうち特に大切な2つの指標を説明します。

健全化判断比率（令和元年度決算 単位：％）

指標	船橋市	中核市平均	早期健全化基準
実質公債費比率	0.7	5.9	25.0
将来負担比率	24.1	46.7	350.0
実質赤字比率	-	-	11.25
連結実質赤字比率	-	-	16.25

実質公債費比率と将来負担比率における他の中核市との比較（令和元年度決算）



実質公債費比率

収入に対する公債費の占める割合で、数字が小さいほどその年度の借金返済額が少ないということです。令和元年度決算では0.7%となっており、県内54市町村中2番目に小さく、全国の中核市60市中でも7番目の小ささです。

将来負担比率

市の実質的な借金が歳入の何年分かを示したもので、数字が小さいほど将来負担が少ないことを示しています。平成21年度から平成28年度決算までは将来負担すべき負債を貯金などで十分返済可能であったため、「-」で表示していましたが、借金の総額が徐々に増えてきたことなどにより令和元年度決算では24.1%となりました。

中核市平均や早期健全化基準と比べまだまだ小さい数値となっていますが、今後数値が増加していくことも見込まれているため、推移に注視しながらの財政運営が必要となってきます。

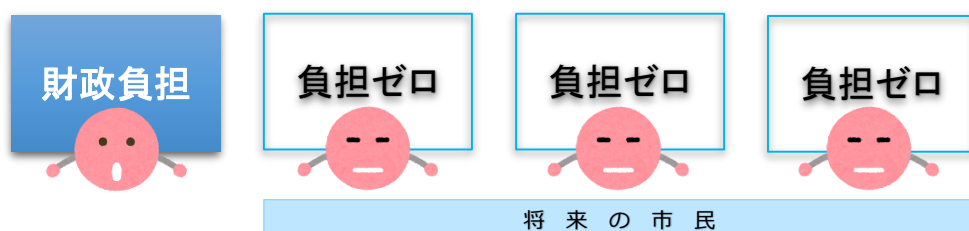
なぜお金を借りるの？

「借金が少ない方が良い」と考えるのは当然ですが、学校や公園などの公共施設の整備には多額の費用が必要です。これらの費用を1年間の予算だけで賄ってしまったら、その1年は他の仕事ができなくなってしまいます。

また、学校や公園などは長い期間たくさんの市民が使いますが、1年間の予算で整備してしまうと、将来の市民は整備費用の負担なしに施設を利用できることになります。

そこで、「市債」という借金をして、1年間の整備費用の負担を小さくし、何年にもわたり返済することで、施設を利用するすべての世代の市民に整備費用を公平に負担してもらうことができます。

市債(借金)を活用しないと・・・公共施設を整備する年度の市民が全額負担し、将来の市民は負担なし



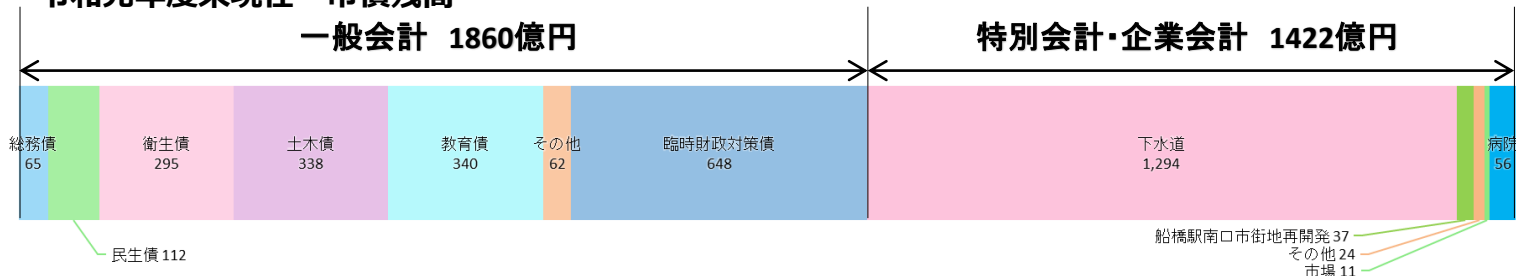
市債(借金)をして・・・将来の市民も整備費用を公平に負担します



今までいくら借りて、何に使ってきたの？

市債の残高は、令和元年度末に、一般会計で1860億円、全会計で3282億円となっています。その使い道は、学校や道路、公園、下水道、医療センターといった施設の整備や改修が中心です。近年は、小・中学校等の公共施設の大規模改修や清掃工場の建替などに多く使われています。また、「臨時財政対策債」の残高が大きくなっています。

令和元年度末現在 市債残高



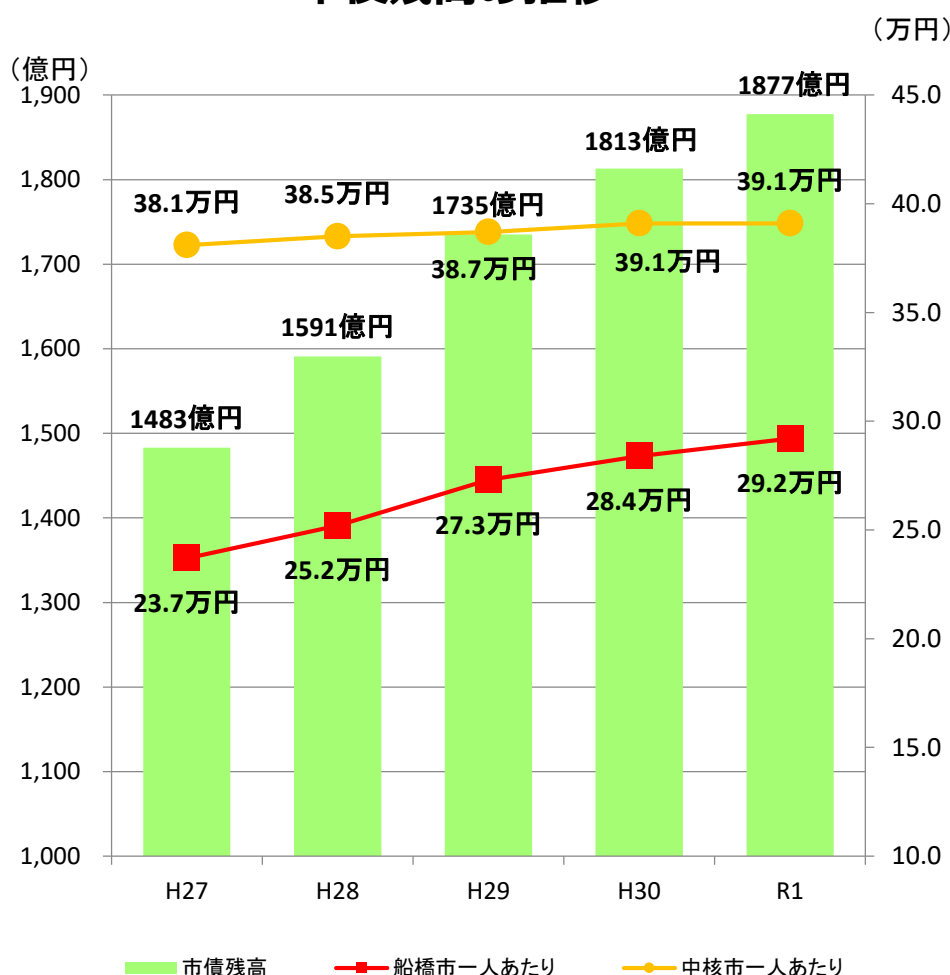
- **総務債**……………出張所、防災施設の整備、東葉高速鉄道への出資など
- **民生債**……………障害者・老人・児童福祉施設、保育所の整備など
- **衛生債**……………清掃工場、保健福祉センターの整備など
- **土木債**……………道路、公園、橋りょう、河川の整備など
- **教育債**……………小・中学校、高等学校、公民館の整備など
- **臨時財政対策債**…国が地方に交付する地方交付税の一部について、市が代わりに借金するもの。返済にかかる費用は将来の地方交付税に加算されて交付されます。

近年の市債の残高は？

令和元年度末の市債残高は1877億円（※普通会計）で、人口1人あたりの金額は291,988円となります。これは全国の中核市60市（平均390,932円）の中では17番目に少ない額となります。

近年、小・中学校等の公共施設の大規模改修や清掃工場の建替の財源、臨時財政対策債の発行により増加していましたが、建設事業の減少により、令和3年度の市債残高は減少予定です。

市債残高の推移



普通会計ってなに？

全国の自治体の予算の作り方をみると、介護サービス事業や区画整理事業などを一般会計で行ったり、特別会計や企業会計で行ったりとバラバラな部分があります。

そこで、自治体間で比較できるようにした統一的な基準となる会計区分を「普通会計」と言います。

返済は大丈夫なの？

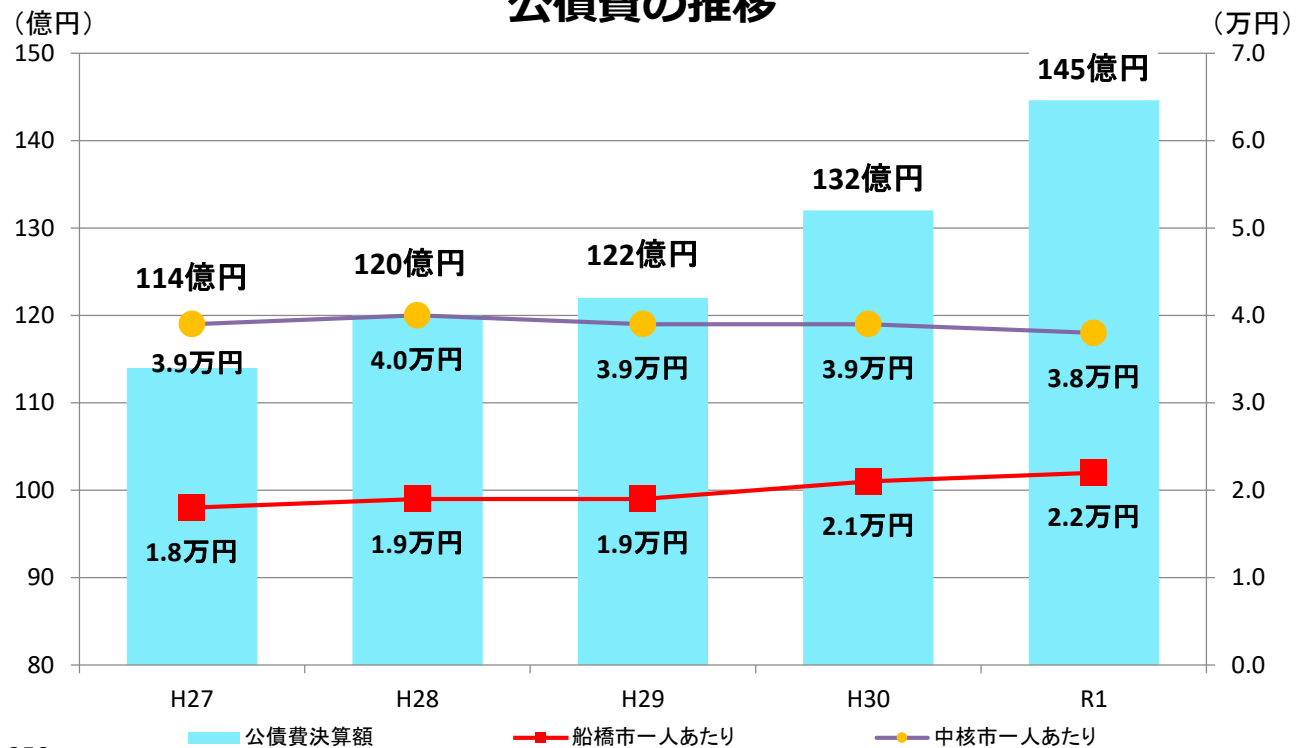
市債の返済金を「公債費」といい、市税などの一般財源で返済しています。

令和元年度の公債費の決算額は145億円（普通会計）で、人口1人あたりの金額は22,493円となります。これは全国の中核市60市（平均38,348円）の中では4番目に少ない額となっています。

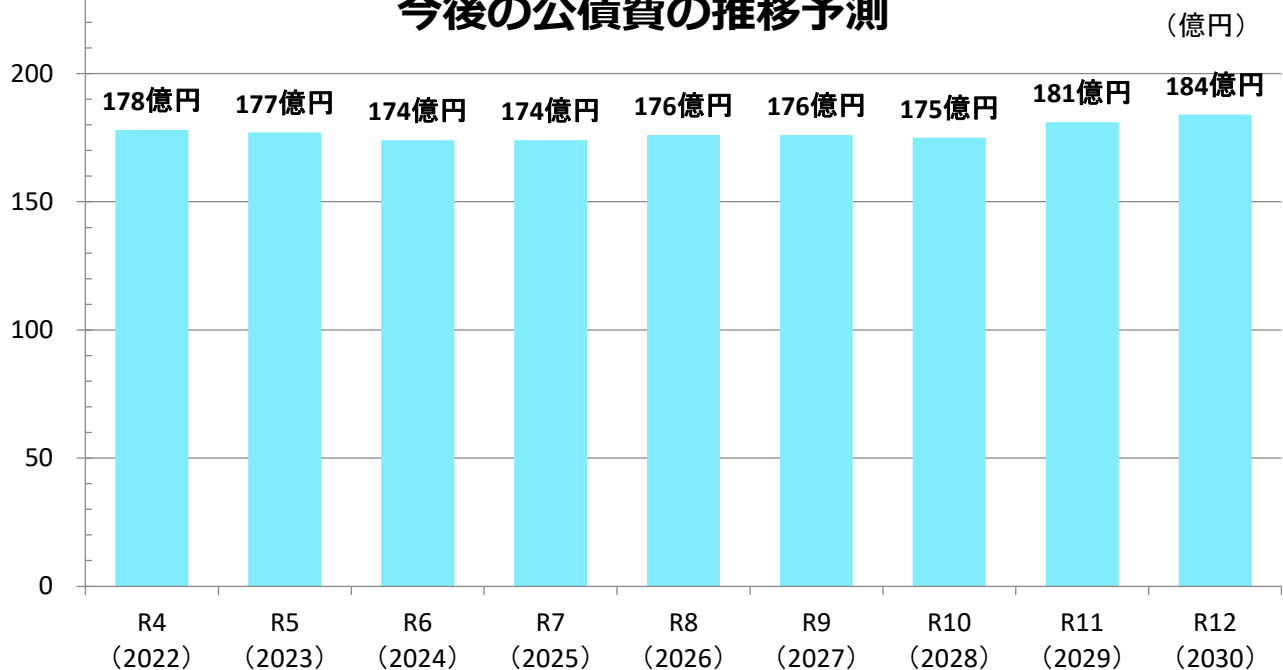
しかし、今後も、公共施設の老朽化や長寿命化への対応を行う必要があることから、市債を発行しなければなりません。近年、市債残高は増加傾向であり、将来、公債費が180億円に達する見込みとなっています。

今後は、建設事業の実施を必要性に応じて厳選するなど、将来の返済の負担が大きくなりすぎないように努めていかなければなりません。

公債費の推移

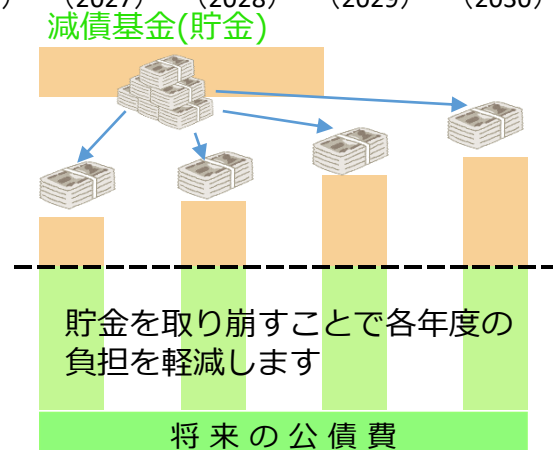


今後の公債費の推移予測



● 減債基金への積み立て

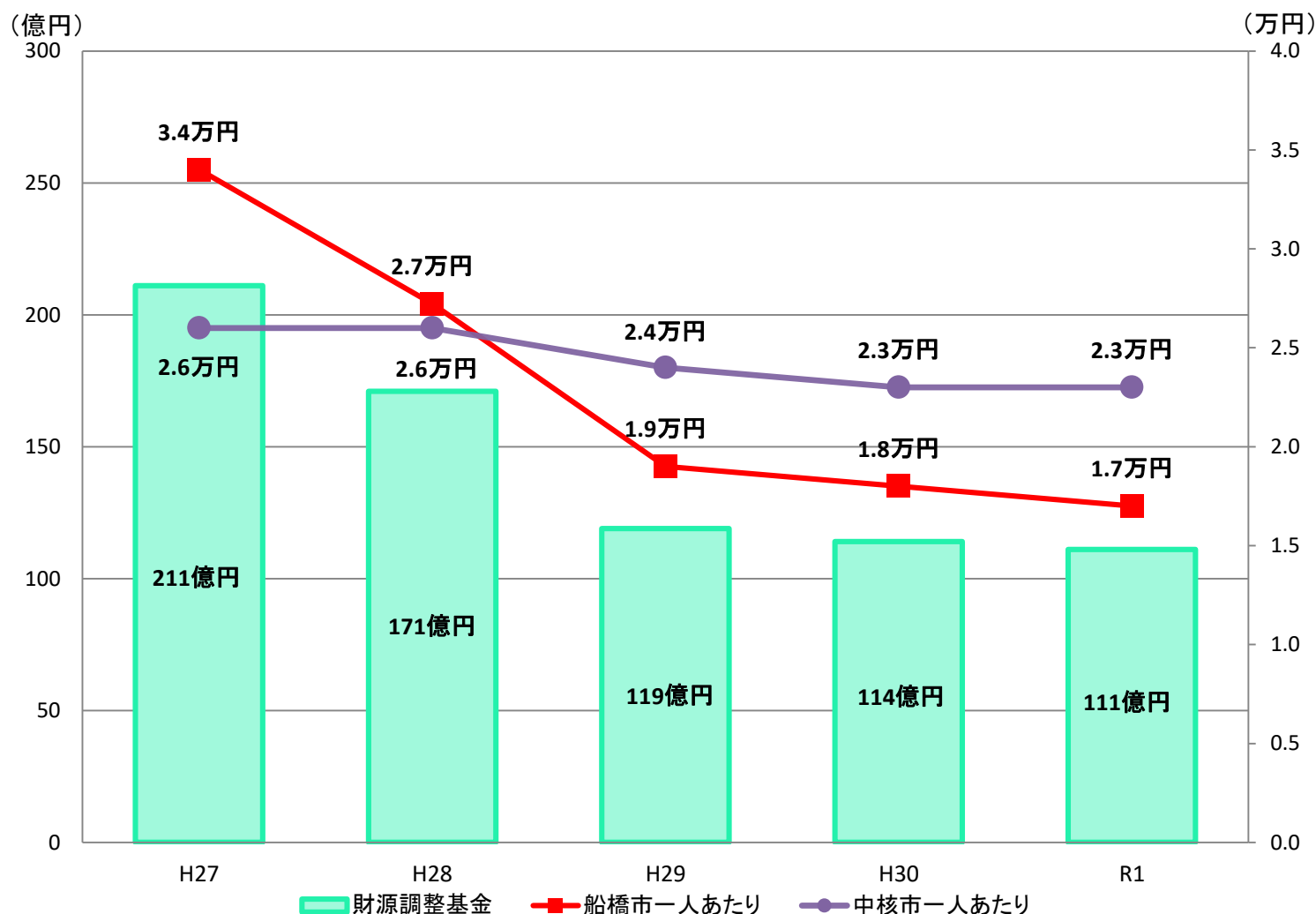
将来、公債費が増加したときに備え、令和元年度末までに約49億円を減債基金に積み立てました。減債基金とは、公債費の支払いにだけ使える貯金です。そして、公債費が増加したときに取り崩す（引き出す）ことで、公債費が大きな負担とならないようにします。



貯金はあるの？

市には、急激な収入の落ち込みや、災害復旧などの想定外の支出、また今後見込まれる公共施設の老朽化や少子高齢化社会への対応等に備えるための貯金があります。これを「財源調整基金」と言い、毎年、決算の時に余ったお金（剰余金）等から積み立てています。

基金残高の推移



財政状況の比較は「中核市同士」で

同じ自治体と言っても、村や町から人口が100万人を超える市まで様々です。自治体により必要とされる行政サービスが異なります。

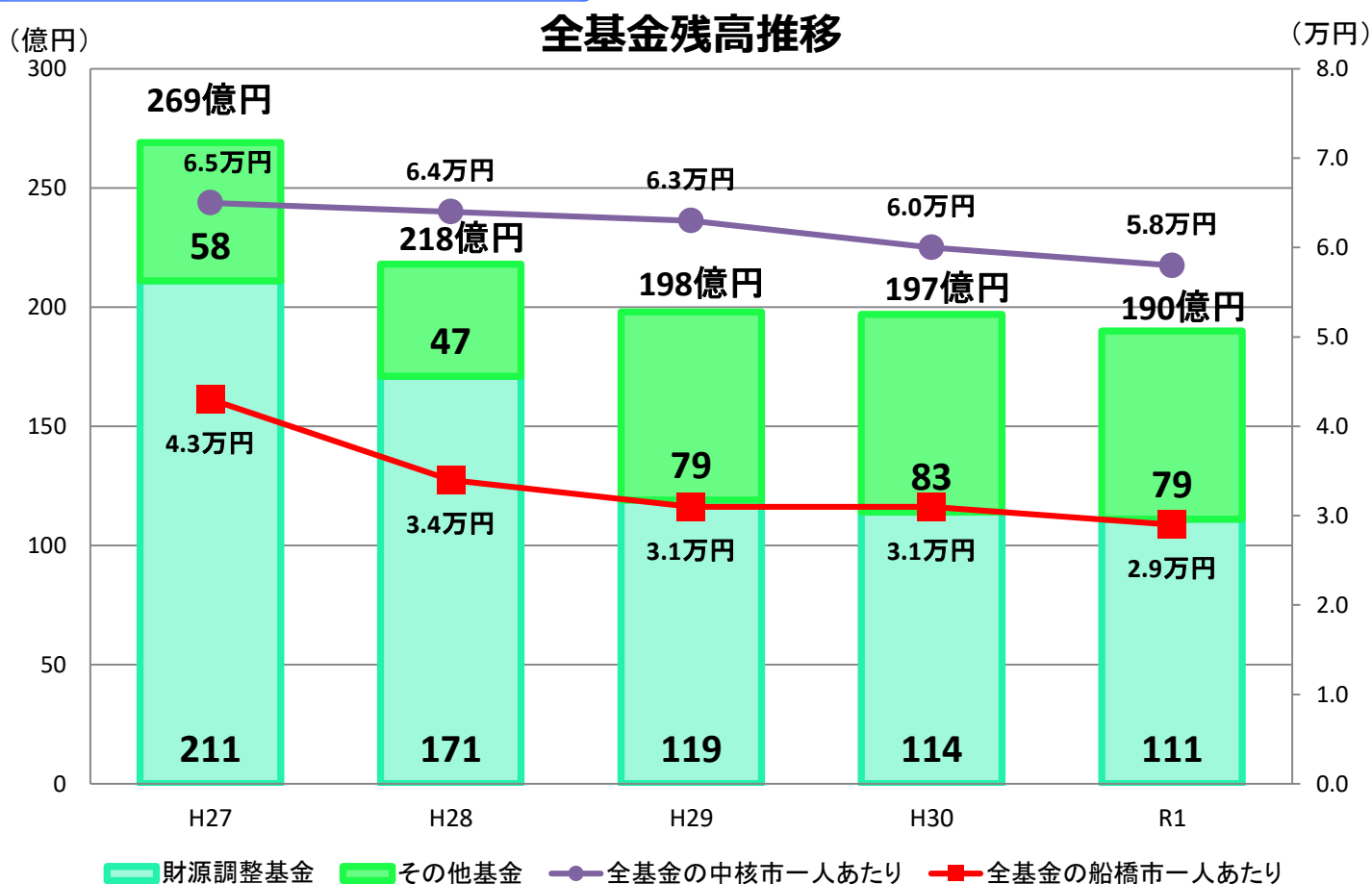
また、政令指定都市や中核市は、都道府県が行う仕事の一部を行っているため、普通の市と比べると行っている仕事や必要となる財源が大きく異なります。そのため、財政状況を他市と比較するときには、船橋市と同じ中核市同士で比較します。

その他の貯金はどのようなものがあるの？

財源調整基金の他にも、特定の目的のために使用する貯金（特定目的基金）や一定額の貯金そのものを原資として貸付等の事業を行うための貯金（定額運用基金）があります。

	基金の名称	目的
特定目的	職員退職手当基金	退職手当の財源に充てるため
	減債基金	市債の償還に必要な財源を確保するため
	公園緑地整備基金	公園の整備、緑の保全、緑化の推進を図るため
	福祉基金	地域福祉の増進に資するため
	一般廃棄物処理施設等整備基金	施設の整備に必要な資金を積み立てるため
	文化振興基金	文化の振興に資するため
	森林環境譲与税基金	森林の整備及びその促進に関する施策の財源に充てるため
定額運用	高額療養費貸付基金	高額療養費の貸し付けのため
	文化芸術ホール事業基金	自主事業を円滑かつ効率的に行うため

船橋市の貯金額はどれくらい？



中核市と比較すると、本市の基金一人あたりの貯金は少ない方です。

財源調整基金では・・・

船橋市 1人あたり1.7万円
 中核市 1人あたり2.3万円
 船橋市 **39位** / 60市中

全基金では・・・

船橋市 1人あたり2.9万円
 中核市 1人あたり5.8万円
 船橋市 **51位** / 60市中

令和３年度予算の主要事業

令和３年度の予算は、市の抱える諸課題を重点的かつ計画的に解決するため、「後期基本計画※」の「めざすまちの姿」で示す６つの取り組みを着実に実施するとともに、施策を進めるうえで重点としている「子どもたちの未来につながる施策の推進」、「船橋の持つ力をさらに伸ばすこと」、「一体感を育むまちづくりの推進」を念頭に置き、「人と人をつなぐこと」を基本的な柱としたことに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大防止や医療提供体制の確保へ予算配分を行いました。

ここでは令和３年度予算に計上した主要事業を新型コロナウイルス感染症対策と６つの「めざすまちの姿」ごとにご紹介します。

※市政運営を総合的かつ計画的に進めていくために「基本計画」があります。特に平成24年度から令和３年度までの１０年間の計画を「後期基本計画」と呼んでいます。

○新型コロナウイルス感染症対策事業

・新型コロナウイルスワクチンの臨時予防接種（２６億４７８万円）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新型コロナウイルスワクチンの臨時予防接種を実施します。



・患者受入病床の確保に対する支援（４９億２１０５万円）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れを行う医療機関を支援します。

・感染拡大防止のための体制確保（１４億５７７５万円）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、相談センターやＰＣＲ検査外来の体制整備、軽症者・無症状者のための宿泊療養施設の運営などに継続して取り組みます。

・介護者不在時の障害者支援（２０２７万円）

障害のある方を自宅等で介護する保護者等が陽性となった場合、濃厚接触者（陰性）となった障害のある方を短期入所で受け入れるため、市内の障害福祉サービス事業所と連携し支援体制を構築します。

○非常時への備えのあるまち

・救急隊の増隊（４１２１万円）

救急体制のさらなる充実強化を図るため、高規格救急自動車を増やし、現在１５隊で運用している救急隊を、令和４年４月から１６隊体制とする準備を進めます。



・被災者支援システムの導入（７５２万円）

大規模災害発生時に迅速かつ的確に被災者を支援するため、建物の被害調査や罹災証明書の発行をはじめ、義援金や住宅改修等の各種支援を早期に実施できるよう、被災家屋等の情報を一元管理する被災者支援システムを導入します。

○安心して暮らせるまち

・介護人材バンク事業（６８０万円）

介護サービス事業者の人材不足の解消を図るため、在宅医療支援拠点ふなばーとにて、介護職種の有資格者の登録や市内事業者への紹介などを行う介護人材バンク事業を実施します。

・地域福祉活動への助成（５００万円）

市民活動団体の活動に係る経費の一部を助成する地域福祉活動助成金について、新たな事業の活動場所に係る賃借料の一部を助成します。

○未来へつなぐ恵み豊かな環境のまち

・下水処理場におけるバイオマスエネルギーの利活用（９億３０６９万円）

バイオマスエネルギーの利活用に向け、西浦下水処理場に続き、高瀬下水処理場において、消化ガスを燃料とした発電事業を令和４年度に開始するため、消化槽の整備を行います。

・路上喫煙及びポイ捨て防止条例改正の周知（３０３万円）

路上喫煙及びポイ捨て防止対策の強化のため、船橋市路上喫煙及びポイ捨て防止条例を改正し、重点区域において直ちに過料を科すことへの変更及び指定喫煙所を実証実験として設置し、周知啓発を行います。

○笑顔があふれる子育てのまち

・ＩＣＴ支援員の増員及びＧＩＧＡスクールサポーターの配置（１億８００万円）

ＧＩＧＡスクール構想を実現するため、主に授業でのＩＣＴ活用等を支援する支援員を増員します。また、機器のトラブル等に対応するＧＩＧＡスクールサポーターを新たに配置します。

・こども送迎センター整備費の助成（７２０万円）

待機児童の解消に向けて、小規模保育事業所を卒園した３歳以上の保育を必要とする児童が、幼稚園を利用するための送迎拠点となるこども送迎センターを、小規模保育事業所と併せて設置する場合に必要な整備費の一部を助成します。

○人が集まる元気なまち

・ＪＲ南船橋駅南口市有地の活用（５億３９７０万円）

臨海部の玄関口及び回遊性創出の拠点としてふさわしいまちづくりに向けて、必要なインフラの整備に着手します。

○市民に愛され、育まれるまち

・ふなばし音楽フェスティバル（１１３０万円）

身近に音楽があるまちの素晴らしさを感じることができるイベントとして、千人の音楽祭やふなばしミュージックストリート等からなるふなばし音楽フェスティバルを開催します。



市では、（公益）千葉県市町村振興協会から「サマージャンボ宝くじ」と「ハロウィンジャンボ宝くじ」の収益金の配分を受けています。

宝くじの収益金は、都道府県別の販売実績額などによって配分されるので、購入は、千葉県内の宝くじ売り場で!!



船橋市の財政に関する詳しい情報は、市のホームページでもご覧いただけます。
アドレス <https://www.city.funabashi.lg.jp/>

トップページ



市政・市の紹介



財政（予算・決算）

令和3年6月